
評価制度の充実に向けた 検討の方向性について (事務局説明資料)

令和 7 年 6 月 24 日

評価制度の充実にに向けた検討の方向性

目指す姿

- 不確実性の高まる社会経済情勢、一層複雑化・多様化する都民ニーズなど、都を取り巻く環境が大きく変化し、その変革のスピードも速まる中、都自らもその変化に機敏に対応すべく、一つひとつの政策や事業について、前例に捉われることなく、柔軟に見直していかなければならない
- こうした認識に立ち、有識者会議での議論も踏まえ、より成果重視の視点から、未知の領域にも果敢に挑戦し得る大胆な政策形成・事業構築を支える評価制度のバージョンアップを目指す
- 具体的には、一つひとつの政策や事業が真に必要なか、手段として最適か、費用対効果は十分かなど、予算編成過程において評価制度を政策や事業の効果を最大限に高めるツールとして、効果的に機能させるとともに、得られた成果やプロセスを明確化し、アカウンタビリティの更なる向上を図る

目 標

1

K P I の本格的導入

2

見直し・再構築の視点の強化

取組内容

- ① K P I の設定
- ② 外部有識者の効果的な活用
- ③ 成果重視の視点に基づく評価内容の充実
- ④ 公会計制度の一層の活用
- ⑤ 決算情報との連動
- ⑥ 評価過程の見える化
- ⑦ 事業 I D の付与

① K P I の設定

Before

- ✓ K P I の設定は任意

After

主要な事業へ新たに K P I を設定

- ✓ 行政計画に掲げる主要な事業のうち終期を迎える事業へ新たに K P I を設定
- ✓ 予算編成過程で K P I の質を担保

KPI設定
風土の醸成

進捗管理
の強化

成果重視
視点強化

② 外部有識者の効果的な活用

Before

- ✓ 事業評価では、デジタル関係評価のみ外部有識者意見を導入

After

重点テーマに外部有識者意見を活用

- ✓ 限られたリソースの有効活用等の観点から、都民の関心や都の行政課題等を踏まえ重点テーマを設定
- ✓ 有識者意見の活用により評価内容の客観性や質を担保
- ✓ 中長期的には K P I のチェック等にも有識者意見の活用を検討

専門知識
の活用

客観性・
透明性の向上

都民の理解
と共感

③ 成果重視の視点に基づく評価内容の充実

Before

- ✓ アウトプット・アウトカムの設定なし

After

重点テーマ事業にアウトプット・アウトカムを設定

- ✓ より成果重視の視点に立ち、施策の手段から目的・成果に至るロジックモデルの考え方を導入
- ✓ アウトプット・アウトカムの妥当性を予算編成・有識者視点で確認

施策の実効性向上

進捗管理の強化

成果重視視点強化

④ 公会計手法の一層の活用

Before

- ✓ 詳細な分析結果の公表は1事例
- ✓ ハード分野を中心に実施

After

公会計手法を活用した分析を拡充

- ✓ 公会計手法を活用した事例の公表件数を例年よりも拡充

多角的視点での分析

フルコスト分析

公会計活用浸透

⑤ 決算情報との連動

Before

- ✓ 決算と連動した**情報なし**

After

新たに決算情報を追加

- ✓ 全事業に**決算情報**を追加
- ✓ **決算書との連動性・検索性向上**

⑥ 評価過程の見える化

Before

- ✓ **評価結果のみ**（見直し・再構築など）掲載

After

評価判断に資する情報を充実

- ✓ 全事業に**予算増減の理由**など見直しの方向性の判断に資する情報を充実

⑦ 事業IDの付与

Before

- ✓ 個別事業の**ID**が設定されていない

After

新たに事業毎にIDを付与

- ✓ 事業IDを付与し、**事業間の経年比較や分析を簡素化**